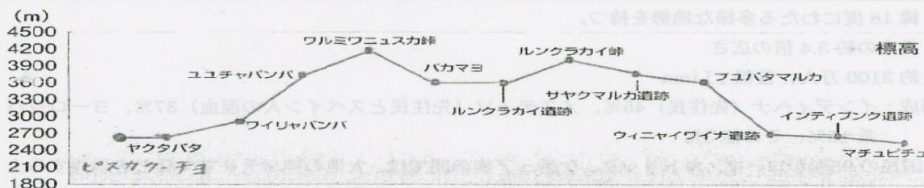
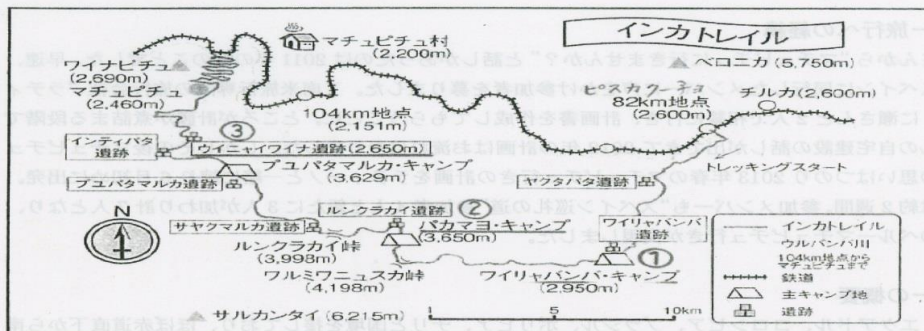


## インカ道トレッキングとペルー周遊 15 日間の旅



マチュピチュ遺跡をバックにして (Inti Punku 太陽の門)



**6/6 (木)** ; ピサク Pisac (Hotel Royal Inka Pisac) ~ピスカクーチヨ (Piska Kucho) ~インカ道トレッキング~1泊目のベースキャンプのワイリヤバンバ (Huayllabamba)

1日目の移動距離 11km 標高差 400m

晴れ 5:45起床。さあいよいよ今日から3泊4日のインカトレッキングである。胸がわくわくする。じっとしてられない。朝食までに少し時間があったのでホテル周辺を散歩しようとしていたら、●●さんもホテル前に出てきた。一緒に周辺を散歩。ホテル周辺の民家から仕事に出かける人々と会う。

6:30朝食 7:15ロビー集合・インカ道トレッキングの出発地点であるピスカクーチヨに向けてホテルを出発 ガイド+ドライバー+マイクロバスは昨日と同じ。ガイドの“ホセ”は、昨日自宅のあるCuscoへ帰り、今日の朝、Cuscoからここへ出かけてきたらしい。若いからタフである。朝、時計が故障していることに気がついた。時計の針は今日の朝1:30を指していた。たぶん電池切れである。これからは記録を取るのにいちいち皆さんに時間を聞かなければならないはめになった。走る車窓から見ると8時頃 学校へ通う生徒に出会った。制服姿の生徒もいる。日本の光景と変わらない。走っている車は追い越し時も車線変更には指示器は出さないものらしい。車は現代自動車製(韓国)、トヨタ製、ベンツ製が多い。但しタクシー(オート三輪車)は国産らしい。車は昨日通ったウルバンバ、オリヤンタイタンボを過ぎ、右奥に頂上に雪を頂いたこの地域の霊峰の一つベロニカ峰(5750m)の勇姿を眺めながらウルバンバ川沿いにインカ道トレッキング出発地点のピスカクーチヨ(Cusco市から鉄道で82km地点)に到着。ここではすでにインカ道トレッキングの別グループも歩く準備をしていた。我々8人(ガイド+7人)を待っていたのは、コック1人と11人のポーターたちであった。背負う荷物の袋に“Amazon”と名のついたグループである。





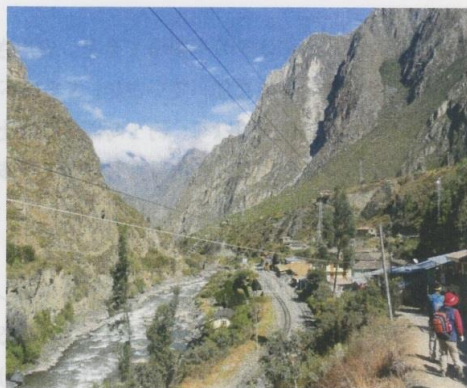
インカトレッキングの朝（ピサクのホテル）



氷雪の霊峰ベロニカ 5750m



ポーターたちの荷造り風景（ピスカケーチョ）



ウルバンバ川とマチュピチュへの列車



インカ道トレッキングいざ出発



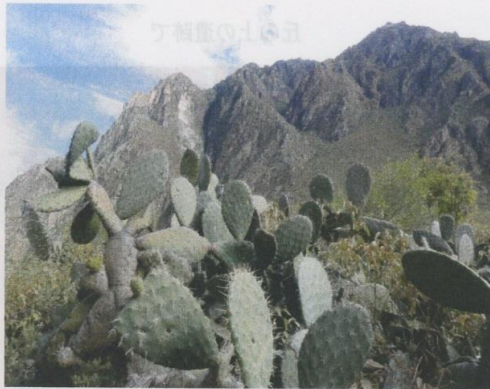
入山登録所傍のウルバンバ川に架かる橋

現在インカ道トレッキングとして整備されているインカ時代の道は、標高 2400m～4200mでマチュピチュ遺跡へ通じる道になっている。入山には人数制限があり、1日 500 人となっているがガイドやコック・ポーター無しでは歩くことが出来ないきまりになっている。よって実質歩ける人数は半分以下となる。実は我々は5月に Peru に来る予定であったが、入山制限に会い、6月になった経緯がある。

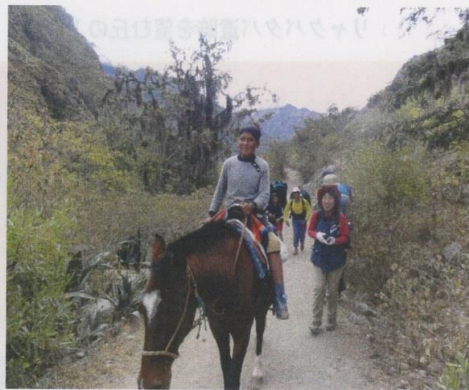
9:30; ピスカケーチョいざ出発。9:50 にウルバンバ川沿いの入山登録所に着く。ここで入山料 (254sol) 支払済証とパスポートの確認を受ける。10:00 入山登録所すぐ脇のウルバンバ川 (アマゾン源流の一つ) に架かる吊り橋を渡る。目指すマチュピチュはこの川の下流にある。心うきうき胸わく



わくである。日差しが相変わらずきつい。進んでいく途中、子供の馬子に連れられた馬に乗って下山してくる女性に出会った。後でわかったことであるが、この先途中まで歩いて行ってそれ以上先に進めなくなった人が下山してくる姿であったのである。子供の馬子が引く馬（又はロバ）をインカタクシーという。費用は40solかかるという。まさか同じことが我々グループから出てくるとは夢にも思わなかった。ガイドの“ホセ”はCusco在住 独身 公用語のスペイン語、英語及び現地語のケチュア語が話せる。又日本語も少し話せる。ケチュア語は日本語と文法が良く似ており且つ言語も似ている部分があるとの事。途中サボテンが蘇生しておりそのサボテンの葉に白い小さな寄生虫が寄生している。その寄生虫を潰すと朱色に変わる。これが口紅、織物の染料の原料として使われているらしい。現在インカ道トレッキング・マチュピチュガイドは約2000人いるが、仕事には事欠かないとのこと。大きな荷物を背負ったポーターたちが我々を追い抜いていく。



サボテン



インカタクシー（乗っている少年が馬子）



タナバンバ (Qhanabamba) 遺跡遠望

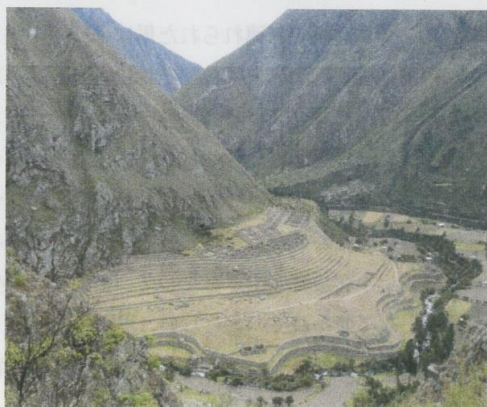


途中のトイレ休憩所にて

11:10; タナバンバ (Qhanabamba) 跡 (2650m) が見える。インカ道 3km、5km毎に昔のチャスキ (情報伝達者等) の休憩所・倉庫の跡。石積みで囲われている。

12:15~12:35; リャクパタパ遺跡を望む丘の上に立つ。ここにも段々畑 (アンデネス) がある。ガイドのホセの説明を聞く。遺跡は東に向いている。太陽は東から昇り北で上になり西に沈む。段々畑への水は南の峰から地下を通じて遺跡の上に出て、段々畑へ自然と流れるようになっている。遺跡の左側の山の中腹の洞窟からミイラが発見された。そのミイラは顔を東に向けてうずくまった形 (人が生まれてくる状態) で見つかった。リャクパタパ遺跡を望む丘のすぐ上にもリャクパタパ遺跡に含まれる別の遺跡が残っている。すべて石積みで囲われている。





リャクパタバ遺跡を望む丘の上から



丘の上の遺跡で



タラヨクのキャンプ場テント内



昼食

13:10~14:15; 雨の中、標高 2764mのタラヨク (Tarayoc) というところに着く。すでに先行していたコック・ポーターたちがテントを張り、昼食を準備してくれていた。スープ+魚料理+ティー+ウォーター。トレッキング最初の食事である。美味しい。誰も残さず食べている。

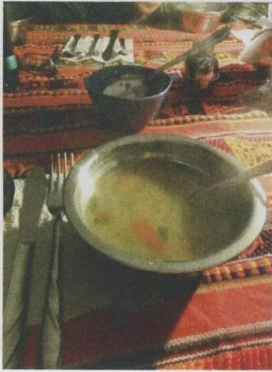
その後ワイリャバンバ (Huayllabamba) 遺跡 (2950m) を見て 16:00、1泊目のベースキャンプのワイリャバンバ (Huayllabamba=緑の芝の原) に到着。まだ雨が降っている。雨宿りの建物 (屋根は草葺き、周囲は柱と腰までの柵有り但し壁無し。鶏が雨宿りしているのをどかして座る。鶏ににらまれた。ポーターたちが雨が降っている中、張ってくれた4幕のテントへ2人ずつ入る。荷物は各自のリュック+ポーターに持ってもらっていたバッグ+寝袋+寝袋下のクッションである。

18:00; 暗闇の中の食卓用テント内での夕食である。灯りはガス灯。スープ+チキン+ジャガイモ+にんじん+豆+ホットリんど+ココ茶。食事を済ませそれぞれのテントに入ってくつろいでいると雨が上がって満天に輝く星空。ああこれが昔、小さい頃生まれ育った田舎で見た星空に似ている。あまりにも星が多いため、インカでは星と星を繋ぐのではなく、星が少なく黒く見えるところを繋いで星座にしていたと言われている。

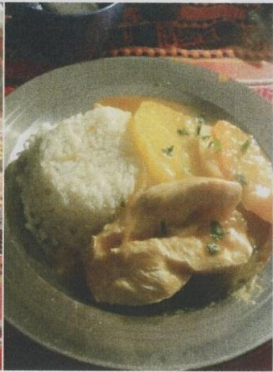
寝る前にトイレに行く。トイレは日本の和式タイプであり、かがんで用を足す。トイレトーパーは持参していき、用を足した後はそばの箱に入れる。又便器の小便・大便の後はハイタンク式の紐を引っ張れば便器の前の方から勢い良く水が流れ洗い流していく。但し水の勢いが強い為、洗い出した水が便器からはみ出し便器の周囲がびしょびしょになる。便所には灯りが無いので夜はヘッドランプ等が必要。20:00; 就寝。最近自宅でも夜に3度もトイレに行く時もあるので水分補給には注意していたが、高山病対策としては1日に2L以上の水分補給が必要と聞いていたので、良く水を飲んでいたので今夜



も朝までに3度(22時、24時、4時)もトイレに行くのはしんどいことであった。



ワイリャバンバでの夕食



ワイリャバンバでのテント



ワイリャバンバでの朝食



出発前に全員集合

**6/7 (金)** ; ワイリャバンバ (Huayllabamba) ~ パソ・デ・ワルミ・ワニユスカ (Paso De Warmihuanusca) 峠~2 泊目のベースキャンプ パカイマユ (Pacaymayu)  
2 日目の移動距離 11 km、標高差 1200m。

4:15 頃から鶏がコケッココと鳴き出した。5:30 起床 今日距離も長く最大の難所、標高 4200 m の峠パソ・デ・ワルミ・ワニユスカ (Paso De Warmihuanusca) 越えだ。テント前に熱いお湯を沸かした洗面器が一人づつ用意されていた。ポーターが準備してくれていたのだ。顔洗いやうである。

6:00 朝食→パン+おかゆ+ジャム+オムレツ+ジュース+ティー→7:00 出発。晴れ 出発直後の登り坂で●●さんが吐き出す。前日から高山病の症状(下痢と吐き気)が出ていたらしい。しばらく様子を見ていたがこれ以上の歩きは無理ということでガイドから判断を迫られ、もと来た道に戻ることになった。今後のルートについて皆で相談する。①案:当初の予定通り尾根筋のインカ道を経てマチュピチュ遺跡へ入る。②案:川筋(ウルバンバ川)のインカ道を経てマチュピチュ遺跡へ入る。結局①案通り進み●●さんはここからポーター1人とインカタクシーでオリヤンタイタンボまで引き返し、列車でマチュピチュ駅まで行き、マチュピチュで宿を取り、我々とはマチュピチュの宿で待合せることになった。8:40; トイレ休憩 トイレの前に子供が待っていて 1sol (約 40 円) 渡すとトイレトペーパーをくれる。





2日目の上り道



2日目の上り道

10:45~11:30; 標高 3800mの地点。トイレ休憩+レーションタイム (オレンジ+みかん+チョコ+ティー)。ポーターたちが先に着いていてテントを張って待っていてくれた。周辺は素晴らしい山岳風景である。ここから緩やかな上り勾配で標高 4260mの峠パソ・デ・ワルミ・ワニユスカ (Paso De Warmihuanusca) まで続いている。45分間の休憩後、いざ出発。しかし足取りは重い、2~3歩進んでは休み又2~3歩進んでは休みの連続である。標高 3800mと言えば富士山の高さと同じである。空気の酸素の量は平地の半分以下といわれている。空気が薄い為 頭痛・吐き気に見舞われる。峠はすぐそこに見えるのになかなか着かない。人のことはかまっていられなくなった。なんとか上りきらなくてはという思いだけで歩いている。元気なのは★★さんだけである。★★さんをフォローしながら我々の最後を歩いている。



標高 3800mの休憩地



逞しいコックとポーターたち

13:00; やつとのことで標高 4260mの峠パソ・デ・ワルミ・ワニユスカ (Paso De Warmihuanusca) にグループメンバー1番乗りで到着。素晴らしい眺めである。しかしガイド及び★★さんはメンバーの遅れている人をカバー (荷物を持ってあげたり励ましたりしながら) しながらのことなのでそれが無ければもっとずっと早い峠到着である。13:30; ★★さん峠到着。バテ状態である。いつもの明るい調子が聞けない。ここからは下りばかりである。石畳は平坦ではなくでこぼこ道である。又急な下り道は段差が非常に大きく歩きにくい。コック+ポーターたちは20kg以上の荷物を担ぎながら悠々と後から来て我々を追い抜き且つ走りながら下って行く。ポーターたちの足は登山靴の人はまれで裸足にタイヤで作ったサンダル形式の靴(?)である。★★さんは少しの休憩だけで下り始めた。私も下りだした。



★★さん 途中で吐く。それでも歩き続ける。なんという人だ。



標高 4200mの峠道。重い足取り



ワルミ・ワニユスカ峠を目指して



標高 4200mのワルミ・ワニユスカ峠にて



峠を越えて緩やかな下り道



インカ道



延々と下る

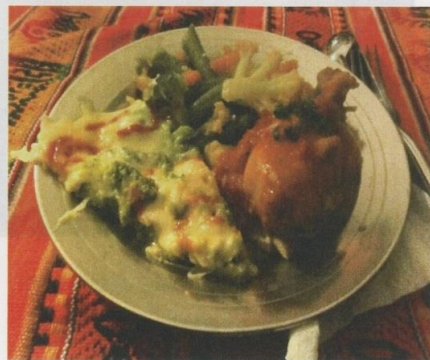
15:15; 2泊目のベースキャンプ パカイマユ (Pacay Mayu) に到着。標高 3650m ベースキャンプの入口に各グループポーターの案内役が待っていてくれるのであるが、私はグループ名を忘れていたため我々グループのキャンプサイトが確認できず、探し回ったが見つからず、ベースキャンプの入口まで引き返しそこで待っていると●●さんがやってきてグループのポーターに案内されてキャンプサイトに行ってしまった。私はその時、一緒について行ったら良かったのに、キャンプサイトをぐるぐる探し回って疲れていたから少し休んでからと思っていたらまたしてもキャンプサイトがわからなくなり、し



かたなくベースキャンプの入口で待っていると★さんがやってきて且つグループのポーターが迎えに来てくれてやっとこさキャンプサイトにたどり着いた。我々のテント場はベースキャンプの一番奥の且つ一番低いところであった。



パカイマユのベースキャンプ



夕食

16:45; ★★さん、★★さんとガイドの補佐をもらってやっとキャップサイトに到着。疲れきった様子。キャンプ場のテントは3張り(★★さんが抜け、6人になったので3張りになった)男女3人ずつ計6人 テント3張りにどのように入るか?★★さん→女性と一緒にのテントは絶対いやと言うし、★★さん→いびきをかくがそれでも良いならとの条件をいい、女性からはそれはいやという返事。残るは私だけであるが、仕方が無く私と★★さんの2人が同じテントで寝ることになった。山でのテント生活では当たり前なことではあるのだが。キャンプ場に着了たらポーターからジュース+スープ+ティーサービス有り。

18:00~19:00; 食卓用テント内で夕食。ガス灯。食卓台にテーブルクロス有り。チキン+ピザ+野菜+スープ+ティー 但し★★さんと★★さん高山病と疲れで食事抜き。20:00; 就寝 深夜、ヘッドランプを付けて少し離れたトイレに行くが、帰り道に迷ってしまいあちこちうろろしながらテントへ帰り着いた。私だけでなく他の人も同じであったらしい。

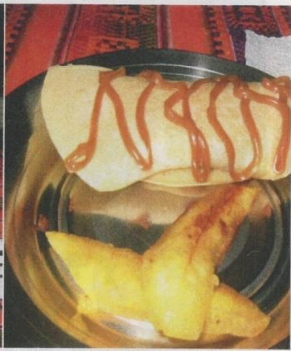
**6/8 (土);** パカイマユ (Pacaymayu) ~ プジュパタマルカ (Phuyupatamarca=霧の高地テラス)  
遺跡~3泊目のベースキャンプ ウイニヤイワイナ (Winayhuayna)

3日目の移動距離 16km、標高差 1200m

5:00 起床 各テント前にお湯を入れた洗面器有り。 5:30 朝食 ホットチョコ+パン+ジャム+パンケーキ+焼きバナナ

6:00 出発 晴れ 7:00、山あい石積みの半円形建造物が現れてきた。ルンクラカイ(植物製の平籠に似た屋根無し小屋、食料小屋) 聖なるところと呼ばれるインカ時代の関所の跡。ここから南にクスコがあり、3km~5km毎に関所があった。インカ時代は、道を通る人をここからチェックしていた。マチュピチュに行くには必ずここを通らなければならない。それでルンクラカイ見晴台と呼ばれている。石組み見学 花崗岩で出来ている。ところどころに水晶(色が白い)が入っている。太陽熱を吸収させる目的。出入口は他の遺跡と同じく上が狭くなっている。又周囲の石垣は地震の時にも倒壊しないように内側に斜めになっているとのこと。ルンクラカイから先はインカ時代に造られた道が今も当時のまま残されている。幅1m程の石畳、踏みしめて歩く一つ一つが遺跡そのもの。

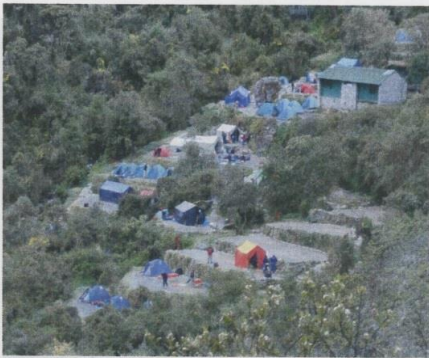




朝食



出発前に勢ぞろい



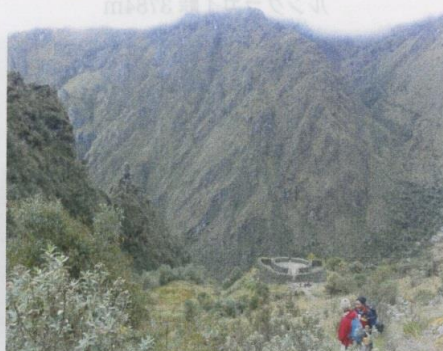
パカイマユのキャンプ場



ルンクラカイ遺跡の前で



階段道を追い越していくポーターたち



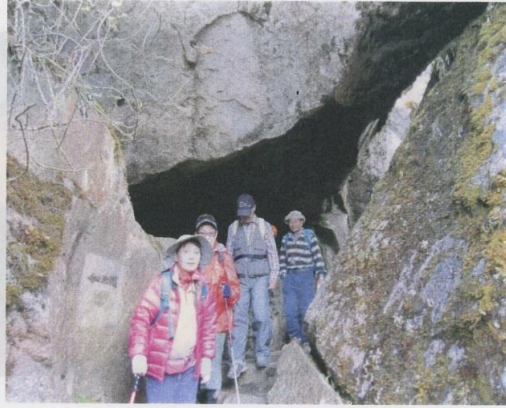
ルンクラカイ遺跡を振り返って

8:10; 標高 4000mのルンクラカイ峠に到着。正面に雪を被ったビルカバンバ山群を望む。16 世紀スペイン人に追われたインカの人たちはこの山中に立て籠もって抵抗を続けた。しかし帝国は滅亡、その人々はどこに消えたのか今も謎とされている。少し進むとサヤクマルカ (Sayac Marca=切り立った高地) 遺跡が見える。しかし先を急ぐためサヤクマルカ (Sayac Marca) 遺跡へは行かずに手前で先へ進む。しかし★★さんのみ遺跡への往復を行った。すぐ追いついてきた。タフである。次の休憩地である Chaqu Iqocha キャンプ場に到着する手前の緩やかな上りでも★★さんの足取りが非常に重くなかなか前に進まない。★★さん 本当にばてている。





登って登って峠を目指す



岩屋のようなところをくぐる



ルンクラカイ峠 3784m



峠からの下り道

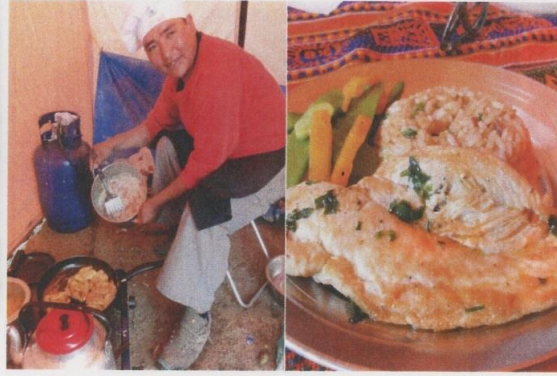


サヤクマルカ (Sayac Marca) 遺跡 (★★さんのみ現地確認)

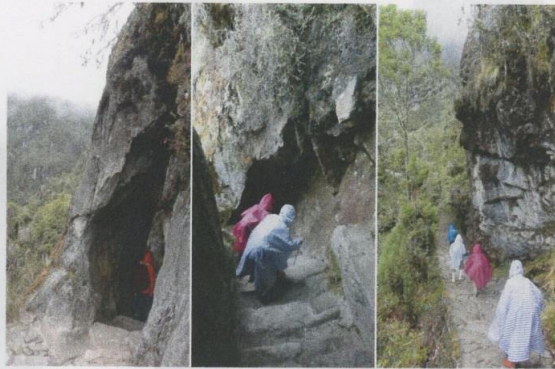




Chaqu Iqocha キャンプ場



昼食作りに忙しいコックとその料理



ロープにつながれて（日付けは日本時間）

洞窟（暗い岩屋の中を階段状の道が続く）

10:00~11:00; Chaqu Iqocha キャンプ場に到着。標高 3576m トイレ有り テント内で昼食→パッションフルーツ+キノワ（穀物）スープ+チキン+ハムライス+野菜+デザート（くず湯）昼食後、ガイドのホセから“この状態の歩きペースでは、今夜のベースキャンプには 21 時頃しかつかない。それでは危険なので●●さんを背負って歩くポーターを雇うかヘリを呼ぶしかないと言われる。”そこで●●さんが●●さんの荷物を全部持ち且つ●●さんをロープ（●●さんが洗濯物干し用として持っていたもの）で縛り、登りは前から引っ張り、下りは後ろから引くことにして歩き出す。インカ道をロープで引っ張られた状態で歩いていくその姿が異様に見えたのか、大きな荷物を背に軽々と足早に追い越していくポーターたちは興味深々と眺めていた。そんなことからガイドから“●●さんは日本人ポーター”と表現される。11:50; 小雨降り出す。洞窟の道（トンネルは、自然の地形を出来るだけ有効に利用して造られている。15mぐらい）、雲の森（雲の王宮=Cloud Palace）を通る。

12:40、標高 3700mの尾根にあるプジュパタマルカ（Phuyupatamarca=霧の高地テラス）遺跡に到着。ここにある建物は全部神殿との事。前のバルコニーはマチュピチュを見るためのもの。Cusco から来た人は、ここで始めてマチュピチュの山を目にする。遺跡の下に見えるのは、マチュピチュ山（3082 m）空中都市として有名なマチュピチュ遺跡は、あの山の裏にある。13:30; マチュピチュのホテルに着いた●●さんと電話連絡が取れた。●●さん 無事にマチュピチュのホテルに到着。明日（6/9日）8時~9時の間にマチュピチュ遺跡入口前で落ち合うことを確認する。朝 なんとも無かったお腹が急に痛み出した。プジュパタマルカ（Phuyupatamarca）遺跡を外れた草むらで自然トイレする。すこしはすっきりする。しかしさらに途中又吐き気がしてきた。そのことを●●さんに話すと、●●さんは喜んで顔をやる。人の苦しみを喜ぶなんて！ゴリンゴ・キラ（急な段差がきつい坂道 アメリカ人殺しの意味）が続く。14:30; 雨止む。





プジュパタマルカ遺跡



プジュパタマルカ遺跡の水道



インティパタ遺跡 (2800m) 左上：ゴリンゴ・キラーが続く

15:10; インティパタ遺跡 標高 2800m リャマの糞が多く散らばっている。まるで黒豆のようだ。名付けてリャマビーンズ。15:30; 遺跡の下部に2~3頭のリャマがいる。観光用に飼っているらしい。先に行っていたガイドのホセが、1頭のリャマと戯れている。皆が近づくとリャマにりんごをやっている。女性たちは自分たちもリャマにりんごをやっている写真を撮りたくて自分のりんごを取り出し次々と与えて写真を撮っている。しかしリャマは威嚇の為に顔を近づけると唾を吐くといわれているのでこわごわ近づいている。最高に楽しそうである。ちなみにリャマを生きたまま買くと800sol (32000円程度) ぐらいだという。

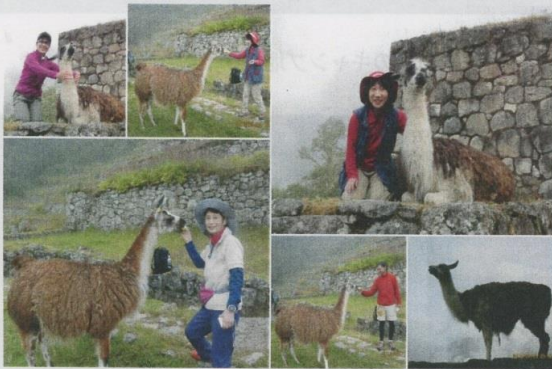




インティパタ遺跡の段々畑 (アンデネス)



インティパタ遺跡のリャマと！



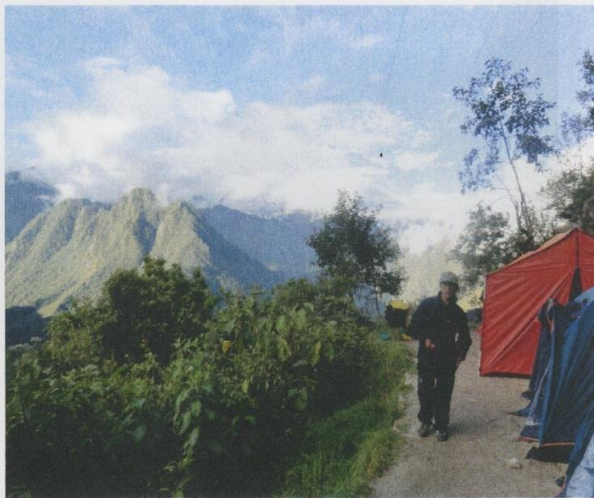
リャマと戯れる



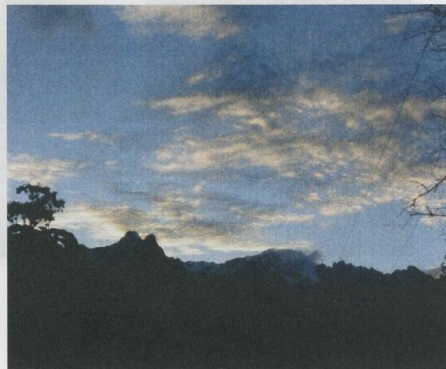
16:15; 3 泊目のベースキャンプ ウィナイワイナ (Winayhuayna) に到着。標高 2650m 黒黒さんの助けで黒黒さんも歩きやすかったのか思ったほど早く着いた。ガイドのホセから“今日の歩きは思った以上”と褒めの言葉。テント泊まり最期の日である。今日のテントは黒黒さんと一緒になった。その理由が“黒黒さんは、夫以外の人と二晩も同じテントと一緒に寝れない”とのことでこういうことになったと黒黒さんから聞いた。見た目と違い案外古風なんだなどの感想を持つ。同じテントの中と言っても何にもないのに。18:00; 喫茶→ポップコーン+パイ (りんご・チーズ) +ティー

19:00; 夕食→スープ (コーン) +肉料理 (リャマ) +ジャガイモ+キヌワ (穀物) +ピーマン。最期に“ウエルカム to Peru”と書かれた丸い大きなケーキが出てきた。テント泊まりでケーキが出てくるなんて驚き。ケーキの切り方が日本的ではない。最初にケーキの真ん中に小さな丸を切る。その後 何等分かで普通の切り方をする。他所のパーティーも今夜でテント泊まりは終わりと言うことではしゃいでいる。黒黒さん→夕食抜き 黒黒さん→スープとケーキのみ食べる。黒黒→スープのみしか食べられなかった。20:00; 就寝 お腹にホカロンを当て 暖めながら寝ることにした。





3日目のキャンプ地“ウイニヤイワイナ”



テント泊 最後の晩餐

4日目の朝

**6/9 (日)** ; ウイニヤイワイナ (Winayhuayna) ~ インティプンク (Inti Punku) ~ マチュピチュ (Machu Picchu) 4日目の移動距離 5 km、標高差 150m

3:40 トイレ (真っ暗闇の中を懐中電灯を持って2人で行く) 4:50 起床 6:00 素晴らしい景色を眺めながらの朝食→パン+ジャム+ティー+ココア 私はお湯のみ。各キャンプ地のトイレ掃除は誰がするんだろうと思っていたら、そのキャンプ場に最期に残ったグループのポーターがゴミ掃除も含めトイレの掃除を行っていた。そういう取決めがありそうである。聞いたことではないが、ポーターの年齢は20代~40代と思われる。●●さん→ポーターに預ける荷物(バッグ)の重量は5kg以内の制限があるのに1日目は5kgだが2日目、3日目になるにつれて預ける荷物の重量が増えていると大きな声で話している。小さな声でも●●さんの声は良く通るものだからみんなに聞こえる。ポーターは日本語がわからないからと思っているのだろう。ご来光:6:05 高圧線が邪魔して写真はまいち。6:20 出発前に、4日間お世話になったコック・ポーターたちに感謝の言葉とお礼のチップを渡し最後の別れをした。“とうとう最後までポーターの人数11名は確認できなかった”と●●さん。

キャンプサイトの他のテントは全て片付けられた後だった。昨日 ●さんと同じテントで寝た件で、みんなから“良く眠れた?”と聞かれ、ぐっすり眠れた“と答えると、●さんから“据膳食わねば男の恥、待っていたのに!”との冗談。私はお腹が痛くてそんな気持ちどころではなかった。





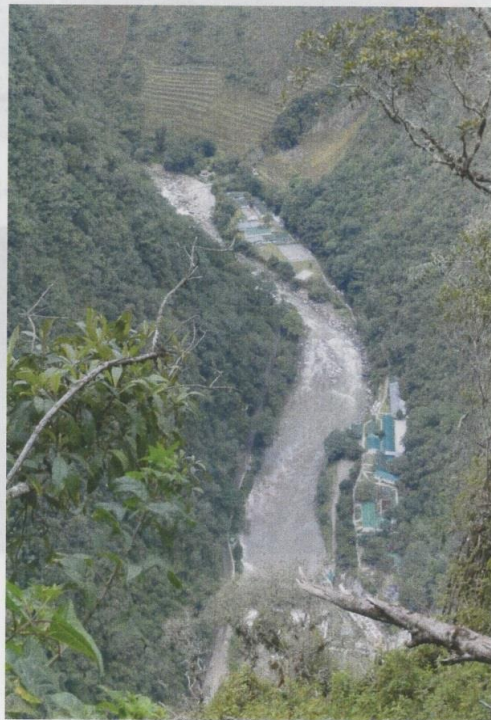
朝食風景



コック・ポーターとお別れ



インカ道トレッキングのチェックポイント



眼下にウルバンバ川の流れ



右にウルバンバ川を見て

6:30; チェックポイント通過。パスポートにスタンプを押してくれる。●●さん 押したスタンプが一部欠けていると文句を言っている。●●さん 昨日と打って変わって元気になったようだ。この付近は熱帯雨林に入ったところ。これまでの自然環境とは少し違う。草木が多く茂っている。途中でハチドリのような鳴き声を聞く、小型で口嘴鋭く尾が長い。“チチ チチ”と鳴く。それを聞いて“チチ チチと鳴いている”と言うと、すかさず●●さんが“ハハ ハハと鳴いていない”と話す。私はなんの事かしばらく無言でいると、又●●さん“わかってよ!”と突っ込んでくる。羽根を広げると大きい。キイウイという鳥もいる。キイウイという鳥はニュージーランドの国鳥で、天敵がないから飛べない。ベゴニアも見つかった。キューキューキューと鳴く赤い鳥、「ダンナゲル」という名前だと●●さんは説明してくれる。日本語の「旦那蹴る」と発音が似ているのでみんなで大笑い。7:17; チェックポイント 現在は使われていない。水平道が続く。





インカ道は花盛り。特に蘭の花の種類が多い



↑モンキーパス 歩いて来た水平道が見える→



ウルバンバ川のダム及び発電所が眼下に見える。周辺の環境は北アルプスの状況と良く似ている。今年2月(雨期)の大雨でガケ崩れが起こった地点を通る。インカグラフィティー(インカの落書き)と呼ばれる岩肌に黄色い苔(地衣類)が塗られたように付いている様子。蜂の巣を見つける。誰かが何だろうと思って指を近づけて見ると蜂が出てきた。あわてて出した指を引っ込める。今歩いている部分は剣岳の“下の廊下”を歩いている感じと●●さんが感想を述べる。きれいな花を見つけたので“●●さん 写真撮っといて”と話すと、“命令しよる”と●●さん。写真の腕は今のメンバーの中では自分が一番うまいと自負する●●さんだから写真をお願いしたのに……。マチュピチュ周辺は蘭の花が多いことでも知られている。ワカンキと呼ばれる珍しい蘭の花を見つけた。ワカンキとは、インカの言葉で“泣く”という意味。もしこの花が折れてしまったら私は泣いてしまうでしょうということで名付けられた。この花はマチュピチュの象徴にもなっている。7:45;暑くなってきた。衣服調整を行う。少し進むとガイドがモンキーパスと呼ぶ急な坂道。それだけきついということ。モンキーパスを登りきったところで一休み。振り返るとウイニャイワイナのキャンプ地が見える。歩いている途中●●さんが話した言葉を●●語録と呼ぶとこうなる。[①女性は美しくスマートになって帰る。②オッサンはしょぼくて帰る。③女性は暗くても明るい時と同じように化粧が出来る。]





感動の瞬間 マチュピチュの正式の門インティプンク Inti Punku (太陽の門) 到達



マチュピチュ遺跡をバックに太陽の門 (インティプンク Inti Punku) にて

8:00; インティプンク Inti Punku (太陽の門) 到着。夏至の日にマチュピチュに最初に太陽が昇る位置である。一人ずつ太陽の門をくぐる。ここからのマチュピチュの眺めは最高。写真撮りに夢中。●



●さん、ガイドのホセに“写真を撮ってくれ”と自分のカメラを渡したら、ホセは自分自身にカメラのレンズを向けている。これはもう撮りたくない証拠又は自分を撮った方が良いという意味？→すかさず●●さん“たいしたことないや！”とホセのことを評す。写真や絵で見たマチュピチュ遺跡に足を踏み入れ感動する。やっと辿り着いた。写真や絵では平面的な遺跡とばかり思っていたが、なんと周囲をウルバンバ川と山々に囲われた山の絶壁の斜面を活用した立体的なものだったのだ。



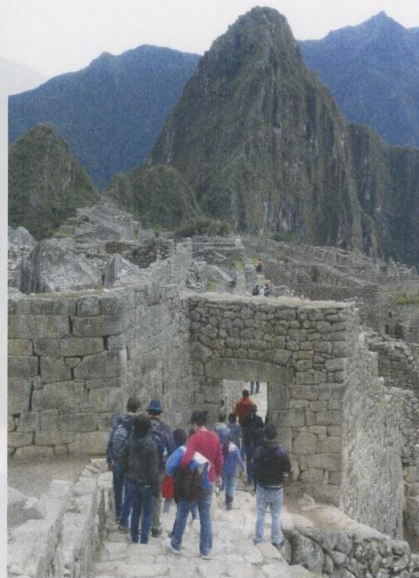
マチュピチュの入口は大勢の人ばかり



ワイナピチュ山をバックに



↑修復中のマチュピチュ遺跡の石積み  
市街地への入口→



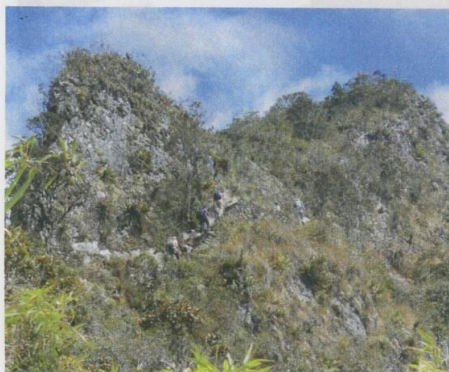
9:00; マチュピチュ遺跡入口前で●●さんと合流。●●さん、大変こころぼそかったことだろうと推察する。●●さんから、6/7(金)朝 ベースキャンプのワイリャバンバを出た時点から、今日合流するまでのこれまでの話しを聞いた。(詳細は行程記録の次に記載)。トイレを済ませレーションを食べる。トイレは1solを支払いトイレトペーパーが必要な場合は、入口脇のトイレトペーパーを切って持って入る。マチュピチュ遺跡に入場後、荷物預かり所に大きな荷物のみ預け遺跡見学に入る。荷物預かりの費用は3sol。ガイドのホセの案内で遺跡内を巡る。ガイドの説明を忠実に訳して説明してくれる●さんの語学力はたいしたものである。リャマの親子(母と子)に出会った。又皆がリャマを囲んで写真を撮っている。インティパタ遺跡のリャマと同じくここマチュピチュ遺跡のリャマも観光用に人に慣れている。よって顔を近づけてもツバをはくことは無い。もともとマチュピチュにはリャマはいなかった。40年くらい前に観光用に連れてきたものが繁殖してしまったのだという。又このリャマの雄は



1匹である。雄が複数いると勢力争いで喧嘩が耐えないという。よって優秀な雄1匹を種リヤマとしているようだ。マチュピチュには当時700人が住んでいたという。斜面に建つ石造群 太陽崇拝を徹底的に計画的に創造した城である。大雨時の為に考えられた地下水路も出来ている。ここは完成途中であった。スペイン人に征服される前に放棄した都市である。なぜ放棄したのか理由はわからない。



↑マチュピチュ山入山登録所  
←マチュピチュ遺跡とワイナピチュ山



マチュピチュ山 (3082m) の山頂を見上げる



マチュピチュ山の山頂付近



マチュピチュ山頂

10:18; マチュピチュ遺跡内からマチュピチュ山登山口に通じる入口でガイドのホセ、●●さんと別れ残り6人はマチュピチュ山(3082m)を目指して石畳道を進む。しばらく進むと入山登録所がある。マチュピチュ遺跡入場チケット・姓名・パスポート番号・入場時間を記載する。●●さんは●●さんの補助のもと我々の最後から歩き始めた。最初は灌木や竹林で囲まれた道で眺望は望めなかったが、しばらく進むと眺望が開けてきて、マチュピチュ遺跡・ワイナピチュ山が見えてきた。●●さんと●●さん



は先に進み、●さんと私が歩いていると後ろから●●さんが追いかけてきた。“●●さんはどうしたの”と聞くと、“途中で登るのを断念して引き返した”とのこと。マチュピチュは周囲をウルバンバ川と山々に囲まれた天然の要害の地と見える。12:00; マチュピチュ山(3082m) 頂上到着。

しんどかった。しばらく眺望を楽しむ。眼下にマチュピチュ遺跡そのバックに聳えるワイナピチュ山。絶景である。今度は登ってきた道を引き返す番だ。下山途中、●●さん、●●さんに“ここ降りたらビスコサワーを飲みたい”と言ったら●●さん“ダメ ダメ まだこれから観光なんだから!”と叱られる。“それはそうだ”と言ったら“私の目的は達した。観光は明日もあるから早く宿に帰ってシャワーを浴びたい”と●●さん。“今日行けるところは今日行っておいた方が良い”と言ったら、又●●さん“そんならあんた行ったら良い”と突き放された。そのことを●●さん、●●さんに話していたら、●●さんに聞かれ、“気分悪い”と又怒られた。12:55; マチュピチュ山入山登録所に下山してきた。下山時間及びサインをする。



マチュピチュ山からの見下ろし



サンクチュアリ・ロッジのビュッフェ

13:20~14:15; 再びマチュピチュ遺跡内を通り、ガイドのホセ、●●さん、●●さんの待つマチュピチュ遺跡入口前に合流する。すぐマチュピチュ入口前のサンクチュアリ・ロッジのビュッフェ(バイキング形式)に入る。非常に込み合っていた。日本人観光客も多い。それぞれ好みの料理を取る。ここでもアルコール類は飲まなかった。14:20; マチュピチュ遺跡エントランスからマチュピチュ駅までのシャトルバスに乗る。曲がりくねったハイラム・ビンガム道路(約100年前マチュピチュを最初に発見したアメリカ人探検家ハイラム・ビンガムにちなんで名づけられた道路)約25分かけてマチュピチュ駅に着く。バス代9.5\$

今回参加者からの紀行文の中の3泊4日のインカトレッキング部分を掲載してさせていただいております。

7名の日本人にガイド、ポーターなどがついて総勢20名のパーティーとなります。プライベートの場合は一人5キロまでの荷物を持ってもらえますが、これが混載ツアーに参加する場合は一切自身で荷物を持たなければなりません。